

# 美術科学習指導案

世羅町立世羅中学校 千葉 敦

- 1 対象学年 第1学年B組 男子18名 女子10名 計28名
- 2 題材名 自然を生かして
- 3 題材について

**題材観** 人間は様々な自然物に注目しながら道具や材料を見だし、物をつくりあげてきた。しかし、現代社会においては人間と自然との距離はかつてないほどに離れてしまった。とはいえ、自然素材のもつよさや美しさが失われてしまったわけではない。いろいろな自然素材に触れたり、選び取ったりする活動を意図的に設定することで、自然素材の持つよさや自然物で造形活動することの楽しさを味わわせたい。

**生徒観** 本学級の生徒は事前に行ったアンケートによれば、今までリース作りの経験がある生徒は28人中12人、リースではなくてもどんぐりや木の実で工作をした経験がある生徒は28人中19人で、ほぼ半数の生徒が何らかの形で自然物によるものづくりを経験している。しかし、周囲に豊かな自然がありながら、自然の中で遊び親しむ機会はますます減少している。

生徒が自然の中へ出かけていき、自然の中で構想を練り、試行錯誤しながら造形活動を行うことが最良だと考え、本校の状況では授業でそれを行うのは時間的に困難である。

**指導観** そこで、生徒たちが自然物をもとに豊かに発想し作品づくりのイメージを広げることができるように、次のような指導方法の工夫改善を行なっていきたい。まず、発想の段階で生徒たちのイメージをふくらませる手だてとして、パワーポイントによりいくつかの例を示し、考えさせたい。次に、生徒同士の発想や工夫点から互いに学び合えるように、鑑賞の時間を取り入れたい。最後に、ホットボンドでの接着という特性上、一度接着したら取り外しが困難なので、制作に入る前にアイデアスケッチをさせ、構想を十分に練る時間を保障するとともに、素材をじっくり観察することが発想につながり、そこから工夫につながっていくと考える。

## 4 題材の目標

自然物の素材感を感じ取り、試行錯誤しながら、材料の特性を生かした素朴さや親しみの感じられる造形作品をつくることのできる。

自然物やそれを使った造形物のよさや美しさを感じ取ったり、友達のいろいろな見方や感じ方や発想の仕方などを学び取ったりすることができる。

## 5 題材の評価規準

表		現		鑑		賞	
美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	美術への関心・意欲・態度	鑑賞の能力			
自然物のよさに関心を持ち、それを生かして楽しく表現活動に取り組もうとしている。	自然物のよさを感じとり、形や構成を工夫し、自分らしく心豊かな表現の構想ができる。 材料のもつ性質や特質を豊かに味わい多様に発想している。	感性を働かせ、自然物の特性を生かした表現方法を創意工夫し、美しく表すことができる。 自分らしくよりよい表現をめざして試行錯誤をしつつ創意工夫している。	自然物を使ったデザインに関心を持ち、作品や造形物のよさや美しさを感じ取るうとしている。	自然物に親しみ、感性を働かせてよさや美しさ、表現の工夫などを味わうことができる。 いろいろな見方や感じ方や発想の仕方などを学び取り、多様な表現のよさや美しさなどを感じ取り味わうことができる。			

6 指導と評価の計画（全5時間）

次	学習内容（時数）	評 価					
		関	発	創	鑑	評 価 規 準	評価方法
1	つるを巻く（1）					・自然物に興味をもって、楽しみながらつるを巻くことができる。 ・リースづくりの基本について理解している。	アイ・アスカチ 行動観察
2	木の実の取りつけ（2） 本時1/2					・自然物を使った造形物に関心を持ち、よさや美しさを感じ取っている。 ・木の実などの素材感を生かしながら、効果的に配置する構想を練ることができる。 ・自分らしくよりよい表現をめざし試行錯誤をしつつ創意工夫している。	アイ・アスカチ 作品 行動観察
3	仕上げ（1）					・素材同士の組み合わせを工夫している。 ・親しみのある素朴な感じの作品に仕上げることができる。	作品 行動観察
4	作品の鑑賞（1）					・自分や友達のを作品を鑑賞し、表現の工夫やよさを感じ取っている。	ワークシート 発言

7 本時の展開

(1) 本時の目標

木の実などの特性を生かしながら、効果的に配置する構想を練り、自然素材を効果的に取りつける。

(2) 観点別評価規準

- ・自然物を使ったデザインに関心を持ち、よさや美しさを感じ取ることができる。（鑑・関）
- ・材料のもつ性質や特質を豊かに味わい多様に発想することができる。（発）
- ・自分らしくよりよい表現をめざして試行錯誤をしつつ創意工夫している。（創）

(3) 準備物

つる、素材（木の実など）、スケッチブック、パソコン（説明用）

(4) 学習の展開

学 習 活 動	指導上の留意事項	評 価 規 準	評 価 方 法
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 5分間スケッチを行う。 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">基礎・基本の定着</span></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 描くことに集中させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 観察しスケッチする力などの基礎的な技能を身につけている。（創）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 作品</li> <li>・ 行動観察</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前時の学習を振り返り、本時の学習目標を確認する。 <b>指導のポイント1</b></li> </ul> <p>&lt;着想の場&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 木の実（素材）を観察する。</li> <li>・ 実際に自分のつるに置いてみる。</li> </ul> <p>&lt;発想の場&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 他の生徒のやり方を見て廻る。 <b>指導のポイント2</b></li> <li>・ 木の実の配置のしかたを考え、アイデアスケッチをする。 <b>指導のポイント3</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ パワーポイントにより、木の実の配置のいくつかの例を見せ、自分の作品に生かすためのイメージをふくらませることができるようにする。</li> <li>・ 多様な材料から発想させるようにする。</li> <li>・ 自分にはない工夫をしているところなどに気をつけて鑑賞させるようにする。</li> <li>・ 他の生徒の方法も参考にしているいろいろな角度から観察し、どのように使えば効果的か考えさせる。</li> <li>・ 自分で準備しようと思うものがあればもってくるようにさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自然物を使ったデザインに関心を持ち、よさや美しさを感じ取ることができる。 （鑑・関）</li> <li>・ 材料のもつ性質や特質を豊かに味わい多様に発想することができる。（発）</li> <li>・ 自分らしくよりよい表現をめざして試行錯誤をしつつ創意工夫している。（創）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 行動観察</li> <li>・ 行動観察</li> <li>・ アイデアスケッチ</li> <li>・ 作品</li> <li>・ 行動観察</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ あとかたづけを行う。</li> <li>・ 次時の予告を聴く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 班ごとに所定の位置にかたづける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 協力してできている。（関）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 行動観察</li> </ul>